第3号

○令和8年度
第3回理事研修会

道小情報

発　　行
北海道小学校長会
札幌市中央区北５条西６丁目
第二北海道通信ビル３０６号室
TEL０１１－２１８－９８５０
FAX０１１－２１８－９８５１
e-mail:h.s.k-32@dousho.jp
https://www.dousho.jp/

令和８年度　第３回理事研修会

☆期日：令和８年９月 30 日(水) ９時 30 分より
☆会場：札幌コンベンションセンター（２Ｆ204 会議室）

【報告事項】
○教育情報について
○会務報告・各部の活動について
○第 78 回全連小研究協議会北海道大会・第 69 回道小教育研究札幌大会について

【道教委行政説明】
●幼児期及び架け橋期の教育の充実に向けた取組の推進について　［義務教育課］
●高校入試に係る合理的配慮リーフレット（小学校版）について　［学力向上推進課］
●①個別の教育支援計画の作成について
②特別支援学級における適切な教育課程の編成について
③全ての教職員の特別支援教育に関する専門性向上について　［特別支援教育課］
●①令和８年度教職員研修に関するアンケートについて
②こども性暴力防止法の施行に向けた研修の実施について　［教職員育成課］
●①熱中症対策（危機管理マニュアルの検証改善）について
②体力向上（運動習慣の確立）について
③学校保健委員会について　［健康・体育課］
●校務における生成ＡＩの活用について［ＩＣＴ教育推進課］
●不登校対策について　［生徒指導・学校安全課］

【協議事項】
○各教育局・道教委への要望活動について
○その他

【連　絡】
○第４回正副会長研修会・理事研修会について
○第４回分科会運営者研修会について
○その他

１　開会の言葉　・・・・・・・・・・ 佐藤　忍　副会長



本日もご多忙の中、第３回理事研修会にご出席いただき、感謝申し上げる。

いよいよ明日は、全連小北海道大会の本番を迎える。これまで長い期間をかけて準備を重ねてこられた稲上会長・実行委員長をはじめ、実行委員会の皆様、そして、全道の役員・理事の皆様には、それぞれのお立場で大会に向けた準備にご尽力いただいたことに、心より敬意と感謝を申し上げる。

明日からの大会は、全国から多くの校長をお迎えすることとなる。長丁場ではあるが、まさに、北海道の力を結集して大会を創り上げる２日間となる。本日は、会務や各部の活動報告に加え、明日の大会を万全の態勢で迎えるための最終確認が行われる。

稲上会長も大会要録の挨拶で触れられているとおり、私たちが大切にしてきたのが、「分科会の充実こそが最大のおもてなし」という理念である。全国から集まる校長が熱く語り合い、明日からの学校経営への活力となるような学びの場を届けることこそが、本大会における真のおもてなしであると思う。

こうした思いを胸に、最後の確認を一つ一つ丁寧に行い、「チーム北海道」として心を一つに、明日を迎えたいと思う。それぞれのお立場から、最後までお力添えをいただくようお願い申し上げる。

２　会長挨拶　・・・・・・・・・ 稲上　敏男　会長



いよいよ北海道大会前日となった。札幌市小学校長会を中心とした「チーム北海道」の力で、全国から参加される校長とともに、「いい大会だったね」と感じられるような２日間にしたい。よろしくお願い申し上げる。

それでは、会長資料について説明する。

春に、この令和８年度道小スローガンを掲げたが、北海道大会の前にもう一度皆様とこのスローガンに込めた思いを共有したいと思い掲載した。「北海道の研究大会の在り方を全国に発信するためにも、北海道の研究大会を知っている校長の力が必要」だということ、「分科会の充実こそが最大のおもてなしの理念を大切にする」ということ、「私たち校長自身が研鑽に励み、失敗を恐れず挑戦し続けることが、

未来の北海道の教育、子どもたちの未来につながっていく」ということ、「ＩＣＴの活用を一つの大きな挑戦としている」ことをお伝えしたが、まさにこれまでの取組や明日からの北海道大会が、「チーム北海道で未来への挑戦！」そのものであると感じている。明日からの大会では、全国の仲間とつながり、大いに学びを深めていきたい。

続いて３ページ、全連小常任理事会での松原会長の資料である。「６月末から８月にかけて、ご対応ありがとう」と記載されているが、実は松原会長は足を骨折して全治３か月という大きな怪我をしている。北海道大会にもお越しいただいているが、まだ完治していない状態で大会会長としてステージにご登壇いただいたり、分科会の巡回をしていただいたりすることになるので、ご配慮やさりげないサポートをしていただきたい。

各地区大会の記録も記載されているが、８月５日・６日の九州地区の熊本大会は、令和８年熊本地震が発生したため、誌上開催に切り替えた。全連小からは、熊本に対して 30 万円の見舞金を特別会計から送ったのでご報告する。

また、４ページに記載されているように、全連小と全日中が共同で、当時の文部科学大臣に対して「熊本地震に伴う学校教育活動の継続及び施設復旧等に関する要望書」を手交している。要望書の内容は、28 ページにあるので、後ほどお読みいただきたい。

次の、国の動向についてアンダーラインを引いたところだが、「給与水準を原則として 60 歳時点の７割に引き下げる措置を見直す他、役職定年制は廃止も視野に検討し、30 年までに国家公務員法等の改正を目指す」とのことである。

続いて９ページ。10 月に全連小の対策・調研担当者連絡協議会が開催される。北海道からは、山田事務局長が対策部会、下山事務局次長が調研部会に参加する。この部会に提出する資料は、７月の全道会長研修会で語られた各地区の取組や課題をまとめたものになる。北海道の声をしっかりと届けていく。

14 ページは、本日午後からの全連小理事会の次第になる。今回は報告事項が中心となる。

15 ページからは、次年度の全連小福島大会の大会大綱修正案である。北海道大会の流れや考え方を取り入れて、日程等で変更になっている部分があるのでご確認いただきたい。

最後は 23 ページ。デジタル教科書についての全連小としての意見書である。先ほどの要望書もそうだが、全連小として様々な場面で、このような声を届けている。全連小の要望の中には、道小から道教委に手交している要望書の内容や全道会長研修会、理事研修会等での皆様からの声も反映させるように努力していくので、今後も各地区の取組や課題等をお聞かせいただければ幸いである。

３　議長選出　‥‥‥‥‥‥‥‥及川　年彦　副会長



会則により副会長の輪番から第１ブロック　及川　年彦副会長を議長に選出。

４　報　　告

(1) 教育情報について　‥　山田　健一　事務局長



今月 24 日までの記事の中から、いくつかを紹介する。

まず、「教員の在学中の奨学金、返還免除を検討　30 年ぶりの制度復活で『なり手不足』解消狙う」という読売新聞の記事についてである。文部科学省は、国公私立の小中高校等で働く教員が大学在学中に国から貸与された奨学金の返還を免除する方向で検討に入った。約 30 年ぶりに奨学金返還免除制度を復活させるもので、質の高い教員のなり手確保や、教員不足の解消につなげる狙いがある。この案では、新制度開始後に採用された教員の奨学金返還を、勤務年数に応じて全額または一部を免除、導入前から勤務している教員も対象に含めるかどうかは今後の検討事項とのことである。

続いて、「全国に先行拠点を設置」という道通の記事についてである。文部科学省は９年度、次期学習指導要領の趣旨浸透に向け、全国４ブロックで教育委員会・教師向けの大規模説明会の開催を計画している。10 年度からの先行実施に向けては 67 都道府県・政令指定都市に「先行拠点」を設置するとともに、専門家による支援チームが域内の拠点校の取組を伴走し、事例を周知・横展開する計画である。今次改訂では、教師・子ども双方に教育課程上の余白を創出するため、学習指導要領の構造化に伴う内容の精選に加え、学校・子どもの実態に応じて柔軟な教育課程を編成可能にする「調整授業時数制度」を導入するとともに、情報活用能力の向上を図る新教科・領域として、小学校の総合的な学習の時間に創設する「情報の領域」は 10 年度、中学校の「情報・技術科」は 11 年度から先行実施する経過措置を設ける。従来の国による説明だけでは学校現場の理解が十分に深まらず、各学校の課題に応じて制度を活用できない可能性が懸念されるため、文科省は全国で教育委員会・教師向け大規模説明会を開催する他、教育委員会を対象にした少人数説明会の開催を計画している。

続いては道内記事、「『オホーツク局 流氷∞ＰＪ』教員確保、離職防止へ まちカフェ、交流会、インスタ活用」という道通の記事についてである。オホー

ツク教育局は本年度、道教委の地域の学び応援事業の採択を受け、「流氷∞Project－つながる・つたえるオホーツクへ」を展開する。同局若手職員が中心になり、管内若手教職員の離職防止、教員志望者の確保に向けた取組を推進。秋以降、大学生向けの「まちカフェ」や交流会の開催、局公式インスタグラムを活用した情報発信等を計画しており、教職の魅力向上と持続可能な教員配置体制の構築を図る。オホーツク局は、期限付き教員の増加や、管内における若手教職員の離職率の高さを課題としている。また、若年層の離職が続くことで、今後の学校運営を担う人材の不足や年齢構成の偏りが懸念されることから、若手教職員の定着が大きな課題となっており、行政が主体となった地域の教育振興に向けた事例である。

類似の内容として、「留萌局等 バーチャルオフィス拡大　日常業務の疑問解消に授業配信や研修、相談会等」という道通の記事についてである。北海道内の小規模や広域性といった特性を踏まえつつ、離職抑制や人材育成に対する興味深い取組といえる。

この他にも、防災の日における渡島管内の一体的な取組、2025 年 PISA 調査の結果・考察についての記事、デジタル教科書に関する「大臣指針」、それに向けた議員連盟からの要請等、様々な記事を掲載しているのでお読みいただきたい。

(2)会務報告・各部の活動について

＜会務報告＞　‥‥‥　丸岡　哲也　事務局次長



７月３日の第２回理事研修会以降、本日までの会務を掲載している。今年度は、計画どおり会議が行われている。各地区の地教研は、７月 29 日に宗谷地区から順次各地区で開催されている。また、８月５日に道教委との意見交換会・各課懇談会が開催された。全連小北海道大会に向けては、７月の第２回、８月の第３回の分科会運営者研修会において詳細な打合せを行い、本日この理事研修会の後、第４回分科会運営者研修会を行い、明日の分科会を迎える。

＜各部の活動について＞

【経営部】‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥　内海　　洋　経営部長



経営部からは「地区別教育経営研究会」の開催状況と依頼事項、「学校経営の資料」「法制研究集録第 57 集」についてお伝えする。

１点目、「地区別教育経営研究会」については、７月 29 日の宗谷地区を皮切りに、本日までのところ全 17 地区のうち 10 地区で実施されている。多くの地区が会同して行い、改めて顔を合わせて研修することのよさに触れる言葉も聞かれている。全連小研究協議会北海道大会以降、10 月６日に予定しているオホーツク地区から再開する。残り６地区が予定されており、10 月 28 日の空知地区で終了となる。今年度から道教委への要望書の回答を各地区に紙面でお伝えしてもよいことになった。そこで、各地区からの質問事項を要望書の回答とすり合わせて整理し、「学校経営の資料」を活用しながら地教研を進めている。教育経営研究会のまとめは、12 月から道小ホームページに掲載する予定であるのでご覧いただきたい。

２点目、「学校経営の資料」については、道小担当者が編集作業を行い、７月初旬に各地区に発送した。７月に行われた小中合同学習会で今年度新しく変わった点について、道小・道中幹事で共有した。地教研を控えている各地区の理事には、地教研参加者に本冊子をご持参くださるよう、周知をお願いする。地教研での活用はもちろん、日々の学校経営の資料として、是非ご利用いただけるようお願いする。この資料については、より使いやすくなるよう毎年見直しを行い、内容の充実を図っている。

３点目、「法制研究集録第 57 集」については、データ化してホームページに掲載する予定である。来年２月の完成に向け、現在、道中経営部が中心となって編集作業を進めているところである。

【研修部】　‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥　植島　博幸　研修部長



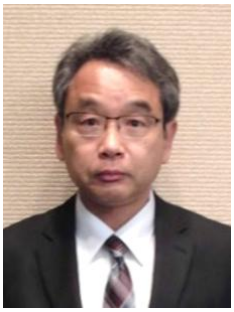
研修部の活動について３点報告する。

１点目は、「第 78 回全国連合小学校長会研究協議会北海道大会・第 69 回北海道小学校長会教育研究札幌大会」についてである。いよいよ明日から研究大会が開催される。これまでご準備をしていただいた大会実行委員会に、心より感謝申し上げる。明日からの２日間は、私たちがしっかりと大会を支え、全国の校長が会同で意見を交わし合うことのよさを感じ、大いに学びを深められる大会にしていきたい。皆様においては、大会役員及び分科会における運営責任者・趣旨説明者等のお立場からのご協力をお願いする。今年度の確かな成果については、令和９年１月に発行する研究集録「小学校教育第 63 号」においてお伝えする。

２点目は、教育改革等に関する調査についてである。今年度も Web 調査で行った。皆様のご協力により無事回答が終了し、ご回答いただいた皆様からは、Web 調査回答完了報告が届いた。今後、全連小の各委員会において分析を行う。調査結果は文部科学省への文教施策に関する要望等に活用される。調査結果の分析等については、全連小より３月に「令和８年度　研究紀要」という冊子となってお手元に届く

予定である。
３点目は、道小ホームページに掲載される「各地区の研究活動」の原稿執筆依頼を 10 月下旬に行う予定である。この点を念頭におき、各地区の研究推進をお願いする。

【対策部】‥‥‥‥‥‥‥‥　佐藤　正寿　対策部長



第２回理事研修会以降の業務について、３点報告する。
１点目は、６月 26 日に行われた全道会長研修会の記録が９月 10 日発行の「道小情報特別号」に掲載されている。「人材育成に関わること」「教育課程に関わること」「時代に即応する教育課題に関わること」の三つの柱から協議を行い、各地区の取組状況とその成果と課題について記載されている。各地区・各校において活用いただければ幸いである。
２点目は、役職定年校長の動向に係るアンケート調査の集計と分析についてである。この結果も道小情報特別号に掲載されている。また、８月発行の道通にも掲載されていることをお知らせする。
３点目は、広域人事に関する調査の集計と分析についてである。この調査は道教委の参考資料としても活用されており、継続してよりよい広域人事の在り方に寄与するところとなっている。７月発行の道通掲載をはじめ、道小情報特別号への掲載と道小ホームページにもアップロードされている。ご協力いただいた各地区の皆様に感謝申し上げる。
今後は、令和９年度全道会長研修会に向けた共通話題の集約等について、文書での回答をお願いする予定である。ご協力のほど、お願い申し上げる。

【情報部】‥‥‥‥‥‥‥‥　石坂　　剛　情報部長



これまでの業務について７点報告する。
１点目は、会報「教育北海道」についてである。338 号については、全道各地から玉稿をお寄せいただき、７月下旬に発刊することができた。配本にご協力をいただき感謝申し上げる。339 号については、執筆依頼を済ませている。11 月 27 日が提出の締切りとなるので、原稿集約にご協力をお願いする。なお、339 号には、今年度の役職定年等予定会員の紹介も掲載する。後日、各地区の事務局長に原稿をご依頼する旨お伝えいただくようお願い申し上げる。
２点目は、道小情報の第３号についてである。本日の理事研修会について報告するので、本日のご挨拶や各部の読み原稿を集約させていただく。理事研修会が終わり次第、情報部の澤口幹事に送付いただきたい。今後も道小情報は電子データによる配信をしていくので、各地区の会員に周知していただくようお願い申し上げる。
３点目は、道小情報の特別号についてである。紙面には６月 26 日に行われた全道会長研修会について掲載している。
４点目は、道小情報・道中だよりの号外についてである。８月５日に行われた「道教委との意見交換会・各課懇談会」について掲載する。
５点目は、道小ホームページの更新状況についてである。更新状況は資料の紙面のとおりとなっている。
６点目は、全連小広報の機関紙についてである。「小学校時報」については、全ての執筆者が決定した。ご協力に感謝申し上げる
最後に、全連小ホームページの「特色ある学校紹介リンク集」の掲載校の更新についてである。新規に掲載する学校は、これまでに全連小の「小学校時報」や「教育研究校シリーズ」「特色ある研究校便覧」に掲載された学校を中心に更新する。ご協力をお願い申し上げる。

(3) 第 78 回全連小研究協議会北海道大会・第 69 回道小教育研究札幌大会について
‥‥‥　松本　昌也　事務局次長



大会日程に関わって、理事の皆様方の動向及び座席等について確認させていただく。なお、副会長及び道小役員の動向については事前の確認を終えているため、この場では理事の動向に絞って話をさせていただく。
まずは、本日（９月 30 日）の日程について。本日はこの理事研修会後に昼食をとっていただき、13 時 30 分から分科会運営者研修会全体会を行う。座席配置については、本日配付した資料に掲載しているので確認いただきたい。全体会終了後、14 時 30 分より分科会ごとの最終打合せを行う。会場については、資料で確認いただきたい。本来ならば分科会場で打合せを行いたかったが、会場の都合によりこの会場で行うこととなった。当日使う機材をそのまま使用してリハーサルを行っていただく。なお、札幌の加瀬理事においては全体会終了後に大ホールで行われる全体リハーサルに参加していただく。分科会の打合せ終了後、趣旨説明者、運営責任者を務めていただく理事は解散となる。16 時からの全体リハーサルには副会長及び植島研修部長にご出席いただく。時間になったら大ホールへお越しいただきたい。なお、副会長と植島研修部長は、リハーサル終了後の交歓会にもご出席いただく。
次に、大会初日 10 月１日の動向について確認する。大会１日目は、９時 15 分からの開会式、続いて文部科学省講話、全体会１、昼食後に分科会が予定されている。大ホールで行われる全体行事については、理事の座席は各分科会の最前列に用意している。各

分科会の座席位置については資料を確認いただきたい。会場図では分科会の位置しか記されていないが、その最前列にそれぞれの座席が用意されていることを理解いただきたい。なお、植島研修部長は、全体会にて登壇する関係上、役員席に座席を用意している。資料にて確認いただきたい。文部科学省講話終了後、11 時に分科会会場がホテルエミシア札幌及び札幌プリンスホテル国際館パミールとなっている皆様については、各会場へ移動する。移動の際には担当幹事より声掛けする。移動手段はタクシーを手配している。なお、コンベンション会場の方は全体行事終了後の移動となる。また、副会長及び植島研修部長においては昼食後に全連小役員とともに各分科会場の巡回を行う。各会場での分科会の終了をもって第１日目は終了、解散となる。

最後に、大会２日目 10 月２日の動向を確認する。２日目は、９時 15 分から全体会２、その後、前沢氏による講演及び閉会式が行われる。この日は資料の会場図にて来賓席と表示されている場所が理事の席となる。詳しい座席位置については本日配付した細かく数字が書かれた座席配置、要項の最後に理事の座席番号を記載している。分科会の充実にご尽力いただいた理事においては、ぜひ最前列の所定の席で前沢氏のご講演をご聴講いただきたい。植島研修部長の座席については１日目と変更ない。また全体会２においても「研究のまとめ」のため登壇いただくので、植島研修部長はステージ席のご確認をいただきたい。大会２日目は、閉会式をもって全体日程が終了となる。閉会式終了後は教育視察に参加する方を除き、時間に余裕のある理事の皆様にはエントランスホールにてお見送りに参加いただきたい。

５　協　　議

(1) 各教育局・道教委への要望活動について
・・・・・・　丸岡　哲也　事務局次長

令和８年度の要望活動としては、昨年度９月から取組を始め、「令和８年度北海道文教施策・予算策定に関する要望書」を取りまとめ、令和８年６月４日に道小・道中・道公教が連名で北海道教育委員会中島　俊明　教育長に手交した。その回答は７月中旬に道教委からいただいており、各地区会員に配付するとともに、地区別教育経営研究会において、地区からの質問事項の回答や説明の資料として活用している。

令和９年度の要望活動に向けて、各地区では今年度の要望書を基に各教育局へ地区の要望書を作成し提出する取組を行い、既に提出した地区もあると存じている。９月２日付けメールにて各地区理事及びへき・複連、道特協各指名理事に依頼・送付した。要望書作成に当たっては、資料で示したスケジュールにて取組を進める。このスケジュールには、要望書の手交後、道教委からの回答資料の提供、会員への配付及び地教研で説明・活用することまでを盛り込んでいる。資料記載の様式にて報告いただきたい。この報告を基に、来年度の要望書作成に向け、道教委及び国に対する要望事項を取りまとめることとなっている。

提出は小学校長会単独の地区も、小・中の校長会が一緒の地区も、今年度は道中の青山事務局次長宛、本日９月 30 日までにメールで提出いただくことになっている。なお、この取組は、札幌市の各校長会にはお知らせのみとする。

(2) その他

特になし

６　議長退任　・・・・・・・・・・・・　及川　年彦　副会長

７　連　　絡

(1) 第４回正副会長研修会・理事研修会について

(2) 第４回分科会運営者研修会について

(3) その他

８　閉会の言葉　・・・・・・・・・・ 神谷　博之　副会長



いよいよ「全連小研究協議会北海道大会・道小教育研究札幌大会」当日を迎える。私は大役を務めるわけでも提言を担当しているわけでもないが、落ち着かない心境である。大会では自分の役割をまっとうしたいと思っている。大会の全日程を終えたとき、来道された全国の校長に「来てよかった」と思っていただければ、これまで準備に奔走されてきた皆様のご苦労が報われるとともに、これからの学校経営への糧ともなるはずである。

皆様が晴れやかな笑顔で大会を終えられることを願い、第３回理事研修会を閉会する。